

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773100827		
法人名	医療法人 清翠会		
事業所名	まきグループホーム 1階フロア		
所在地	大阪府大阪市旭区生江2丁目14番24号		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2773100827&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様だけでなく職員同士もコミュニケーションが図れており、フロアでは和やかな雰囲気と笑い声の絶えない環境作りが少しずつ図れている。職員全員がやりがいを持って仕事に向っており、利用者様を第一に考える姿勢が感じられる。フロアや居室にも明るい雰囲気を出す為、協力して可愛い飾り付け等を行っている。利用者様全員で食事に出かけて頂くこともでき、温泉へも出来るだけ多くの利用者様に参加していただけるように職員が協力しあっている。利用者様一人一人に応じた対応を心掛けており、全員が同じ方向に向かって統一したケアが行えるよう日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人清翠会の運営であり、施設長が医師、管理者が看護師であることから日々の健康管理や医療との連携体制が充実しています。また、日々の関わりの中で職員全員が個々の利用者について知った情報をカンファレンスコメントシートに記載して利用者の意向や希望を検討し介護計画を作成しています。作成された介護計画に位置付けるサービスは、個々の職員が意識して提供し記録に残されています。今後、今以上に利用者の楽しみ事が介護計画に反映していけるように取り組みたいと考えています。更に、年に2回の家族会及びアンケートを行い意見や希望を聞く機会を作り、出された意見に関してホームで検討した回答を載せたアンケートの結果を家族に送付したり玄関に掲示し家族の意見も運営に反映されるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「保健、医療、福祉を通じて地域の皆様の健康で豊かな生活を支援します」を掲げており品質目標にも組み入れ毎朝読み上げ意識の向上に努めている	地域に根差したサービスのためのホームの理念のもと、行動目標が法人より示され、職員間で話し合い方針を立てています。各フロアに掲示し、毎朝唱和し理念を意識したサービスの提供を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、近くの小学校で行われている「ふれあい祭り」に入居者様に参加して頂き、地域の方ともお話す機会がある。他の小学校で行われた盆踊りにも参加され大変喜んでいただいた	近隣には民家も少なく、自治会には加入していませんが、回覧板の内容は自治会長から伝えてもらい、幼稚園の園児が来訪されたこともあったり、地域の小学校の運動会の見学に行くなどの交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と一緒に地域の催し物に参加したり、地域の飲食店などを利用して頂いている。家族会で認知症についての説明を行い理解を深めて頂いた。今後は認知症サポーターを増やす活動を行っていききたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の自治会長様や民生委員の方に地域の情報をいただき、家族様には面会の時の過ごす場所についてご意見をいただき、ご希望に添えるように取り組んでいる	家族や自治会会長、副会長、地域包括支援センター職員等をメンバーとし、おおよそ3か月に1回運営推進会議を開催しています。ホームの活動内容を報告し参加者から要望や助言を得ながらホームのサービスについて検討する会議となっています。	運営推進会議は2か月に1回の開催が望まれます。行事を兼ねるなど工夫し定期的に開催されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度最初の運営推進会議の時、介護保健課の職員の方へ出席依頼をしたが昨年と担当者が変わっておられ一度も出席して頂けていない	運営推進会議の参加を依頼したり会議録を届けていましたが、協力が得にくく区の担当者との関係作りには至っていません。法人を通して必要な情報等を得ています。	運営推進会議の報告や運営に関しての相談などの働きかけを続けられることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や、高齢者虐待について所内研修を行っている。事例検討でグループワークを行い多くの意見を出し合いグループ毎に発表している。出席できなかった職員には資料、発表内容をまとめ回覧し全職員が周知徹底出来るようにしている	身体拘束の禁止について毎年研修をや事例検討を行い、より具体的に職員にわかりやすく説明し、実際にも取り組んでいます。車の通りが多い道路と面しているため、玄関の施錠していますが、外に出たい利用者には一緒に出かけるように心がけ支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については法人内の研修や所内研修で学ぶ機会があった。所内研修後も一階のミーティング等で虐待についての話し合いを行った。		

まきグループホーム(1階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内研修で学び話し合う機会を持った。研修に参加出来なかった職員に対しては資料の回覧を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様やご本人の要望を伺っており生活に反映できるようにしている。改定に関しては事前に書面にてお知らせしている。来所時に再度管理者や主任から説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を行い、その際アンケートを行っている。参加されなかった家族様へは郵送し無記名で返送して頂いている。質問等についてはアンケート結果と共に回答欄に記入をして家族様へ郵送している	家族の来訪時のコミュニケーションや年に2回の家族会及びアンケートを行い、意見や希望を聞く機会を作っています。出された意見に関してホームで検討した回答を載せたアンケートの結果を家族に送付したり玄関に掲示しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回運営会議を開催し主任、事務長も出席している。現場の意見をまとめ提議している、議事録は施設長にも回覧している。検討事項は管理会議(月1回)の場で話し合っている。	フロアで行うカンファレンスで職員から出された意見は、管理者と事務長、主任をメンバーに開催される運営会議で反映されています。不定期ですが管理者は個人面談を行ったり、日頃から声をかけ職員の意向を聞くよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の品質目標を設定し年2回マネジメントレビューを実施し施設長と面談を行っている。介護給付金については紙面にて伝達されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の所内研修には出来るだけ参加するようにしている。所内・所外を問わず職員が積極的に希望する研修があれば業務として参加出来るような配慮も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに加入しており、勉強会には管理者や職員も参加し情報の共有や相談など交流を持つことが行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様がまず何に困っていらっしゃるのかを会話の中より早急に探っていく。可能な限りお話をする時間を持つように共感することで少しずつ関係性を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が対応にあたりGHにお電話があった段階よりお話を傾聴するよう心掛けている。見学に見えられた際にもGHの雰囲気を理解して頂けるような丁寧な対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず家族様やご本人様よりお話をよく傾聴してから何を ご本人様や家族様は求めておられるのか、何を必要とされているのかをお話から見極め、その方にとって必要なサービスを管理者が判断し対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事の際、利用者様に下準備のお手伝いや調理の仕方などを教えて頂いたりしている。日常の常識についても職員に対しお話しして下さり教わる機会も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月間予定表を家族様に送付し行事等に参加していただけるよう案内をしている。家人様へ連絡事項でお電話する際、利用者様とお話して頂いたり、お写真や、年賀状をお送りする事で少しでも関わりを持って頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所された後にご近所の方が訪ねてこられたらゆっくりと過ごして頂けるような環境を調整している。よくお買い物に行かれていた商店街にも出かけて頂くようにしている	入居時に面会についての説明を家族に行い、馴染みの人との面会を勧めています。時には以前良く行っていた商店街や公園に出かけるなどの馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他階の方と仲良くされている利用者様もいらっしゃるしお互いのお部屋を行き来して頂いている。気の合った方同士の座席にしていることもあり同席の方同士が良く談笑しておられる。		

まきグループホーム(1階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にも面会に行ったり、家族様にも何かあればご連絡をして頂いて良い環境を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の過去の生活習慣や言動などから把握に努めているが判断が難しい事が多い。可能な限り本人様の意に添うよう職員同士意見の交換をし検討している。	ホームで定められた基本情報に加え、アセスメントを行い意向の把握に努めています。日々の関わりの中で職員全員が個々の利用者について知った情報をカンファレンスコメントシートに記載し、それをもとに利用者の意向や希望を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の言動や家人様にお伺いした情報を元にケアに活用している。今後も家族様よりお話頂ける様な関係を継続していきたい。利用者様とも接する時間を確保することで情報収集に努めていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が利用者様の心身状態の変化を把握できるような気付きを持てるよう指導を行っている。利用者様一人一人に担当者を設け、その方に合ったケアの対応が行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、カンファレンスノートや個別のコメントシートに記入されている意見について話し合い、ケアプランを見直し作成している。その際は家人様の意見も取り入れている	職員全員の意見をもとにサービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。6か月ごとの更新とし3か月ごとにモニタリングを行っています。日々の記録は介護計画に基づき記載され実施状況が振り返ることができるように取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にはケアプランに沿った記録をしている。実践したケアなどは記録に残し情報の共有を図っている。介護計画の見直しに活動記録やが利用者様一人一人に対するコメントを記したシートを活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人様の体調が悪い場合、家人様に替わって物品の購入をしたり、家人様が遠方の場合、入院された方の衣類等の洗濯をさせて頂いている。		

まきグループホーム(1階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園児の来訪や幼稚園や小学校の運動会の見学、地域で行われているふれあい喫茶や盆踊りなどの催し物に参加させて頂いている。GHの催し物では職員の家族がエレクトーンの演奏を披露して下さった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム長が医師であり、2週間に1回訪問診療を実施している。かかりつけ医を希望される場合は要望にお応えし、ホーム長が情報提供書を作成している。眼科・皮膚科・耳鼻科などは適宜訪問診療が可能である。	入居時に以前からのかかりつけ医を継続できることを説明していますが、施設長が医師であり管理者が看護師であることから全利用者が施設長の往診を受けています。2週間に1度の往診があり、24時間連携体制が確保できています。また、眼科や耳鼻科、歯科の訪問診療があり、近隣の皮膚科への受診の支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、利用者様の日常における変化については逐一報告・相談・指示を仰いでいる。訪問看護師にはリハビリ等のサービスを受けており適宜相談や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを病院に提供し、また退院時には看護サマリーやリハビリの情報等提供して頂いている法人内に病院があることで病院関係者との連携は取りやすく、また管理者が看護師である為GHに早期退院されても安心して介護が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用基準としては経口摂取が可能な状態としており、状態により主治医、家族、スタッフと話し合う機会を設けている。訪問看護師による点滴も施行可能で、改善の見込みがあれば、生活継続出来るように対応している。	入居時に重度化した場合にホームとしてできることやできないことを説明しています。実際に重度化した場合には、その都度医師と家族、職員とが繰り返し話し合いながら取り組んでいます。その対応は介護計画に文書化して方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修で緊急時の対応を何度も行っており職員全員参加出来ている。新しい職員には緊急時マニュアルを熟読するよう指導しており、今後は定期的にフロアのミーティング等でシミュレーションを行う計画である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回マニュアルに沿って消防訓練(通報・避難・消火)を実施しており(1回は消防署職員の立会い)水消火器を借用し方法についても実践している。自治会長様や民生委員の方にも訓練の見学に来て頂いている	年に2回避難訓練を行っています。夜間と昼間の想定を変えたり、消火訓練や通報訓練などを実施しています。自治会長や民生委員などが訓練に参加してもらっており、地域の方へ協力を働き掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋でゆっくりと過ごされている時はその時間を大切にしている。入室時は必ずノックをしている。体操などのレクリエーションにはご本人の意志の尊重をしている	その場に合わせた言葉遣いであっても、利用者の尊厳を守ることに配慮した言葉遣いに配慮しています。特に排泄の誘導には直接的な言葉を避けています。不適切な言葉遣いがみられた時にはその都度管理者が注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のお話をお伺いし思いや希望などをお聴きしている。職員は利用者様が自己決定しやすいようなお話掛けをしている。意思の疎通困難な方には表情や発せられる言葉で読み取るようにはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様それぞれの希望に添うように職員一人一人が心掛けている。より利用者様と接する時間を確保する為に業務の見直しや更なる利用者様個々の理解を深めケアの改善などを今後も図っていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め希望がある場合は家人様に連絡し行きつけの美容院に行っている。介助が必要な方には起床時に整髪・整容を職員が行っている。またおしゃれに関して希望の物を家人様に持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じて調理準備(包丁でカットなど)盛り付け、食器拭き、食器かたづけ等一緒にして頂いている。食事についてはお一人お一人の好み、形態について対応できるように心掛けている	夕食は隣接する施設から運ばれてきますが、朝食と昼食はホームで利用者と一緒に食事作りや後片付けをしています。職員も一緒に同じものを食べ、会話を楽しみながら食事を支援しています。ミキサー食や刻み食にも対応し、できるだけ元の形のわかるように盛り付けたり見た目にも食欲が出るように心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて刻みやミキサー状にし、トロミを付けたりし摂取して頂き易いように配慮している。水分摂取量が少ない方は摂取量をチェックし記録している。飲んで頂けるよう声掛け、頻回に提供をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず歯磨きを行って頂いている。介助が必要な方は職員と一緒に口腔ケアを行っている。義歯は定期的に洗浄剤での洗浄を施行している。歯科往診で週1回、口腔衛生が施行されている。		

まきグループホーム(1階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ボードに排泄記録を記入し、個々の排泄リズムを把握し可能な限りトイレで排泄できるようにしている。紙パンツから布パンツに日中は履き替えて頂いている。下衣の上げ下げはできるだけ自身でお願いしている	排泄記録を見て個々の排泄状況に合わせてトイレへ誘導し、失敗のないよう支援しています。利用者の自立度を観てリハビリパンツからパット、布の下着と段階に応じて選んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のある野菜や果物、コーンフレークや牛乳ヨーグルトなどの食材を取り入れている。また水分を多く摂取して頂くようにし、起床時に水か牛乳を飲んで頂いたりもしている。朝やおやつ後に体操を施行している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数は3日に1回の実施が現状であるが汚染等があればその限りではない。入浴時間やお湯の温度についてはご本人の要望にお応えするようにしている。ホテルのお風呂にも出かけて頂き大変喜ばれた	現在は夜間や午前の希望者はおらず、3日に1回のペースで午後からの入浴となっています。汚れた時に急遽シャワーをしたり寝る前に足湯を行ったり、時々の状況に合わせて支援しています。スーパー銭湯に行ったりホテルに風呂を入りに行く等楽しみとなるような支援も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ利用者様に合わせた起床や入床を行っている。眠れない方には温かい飲み物を提供したりお話を傾聴したりしている。日中は希望される方や傾眠見られる方には1時間ぐらい臥床して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は管理日誌・申し送りノート等に記載し申し送りで伝達し、その後の様子を介護日誌に記録している。変化があれば直ぐに管理者に報告を行っている。個人ファイルに処方箋を綴り、情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の状況を考慮して家事等をお手伝いして頂いている。朝コーヒーを飲まれる習慣の方にはコーヒーを提供し、近くの地藏様にお参りなど利用者様が好まれる事を個々に提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は近くのスーパーに毎日お買い物と一緒に掛けて頂いていたがそのスーパーが閉店となり毎日の外出(交替)が困難となった。近くのコンビニや施設内の庭に出かけて頂き外気に触れる機会を作っている。外食の機会を多く作るようにした	暖かい日には近隣の公園に散歩に行ったり、近くのコンビニへ買い物に行っています。家族会を兼ねて家族と一緒に弁当を持って公園へ出かけたり、季節ごとに菊花展や菖蒲園など花を見に出かけるなどの支援を行っています。広い庭があり、庭に出て外気に触れることもあります。今後更に外出の機会を増やしていきたいと考えています。	

まきグループホーム(1階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は外出先で職員が傍で見守り嗜好品の購入をして頂いている。お金をお預かりしている方については職員が利用者様のご希望に応じて購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には可能な限りかけて頂けるよう配慮している。また家族様へ連絡事項で電話した際にはご本人にも電話に出て頂いている。年賀状など見本作りや下書きを作り書いて頂く工夫を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節を感じて頂けるように、お正月、節分、お雛祭り等共有部分の飾り付けはレク委員を中心に手作りで実施している。室温、湿度に注意し冬期は加湿器を使用している	広いリビングの真ん中に畳のスペースがあり、雛人形が飾ってあったり季節を感じる飾りつけに配慮しています。個々が居心地良く過ごせるように、テーブルの配置も各フロアの利用者に合わせて工夫しています。空気清浄機や加湿器を置き環境の調整にも気を配っています。ベランダで花を育てたり、広い庭では草花以外でも野菜を作り、利用者の楽しみにもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの座席は利用者様の相性を考慮したものとなっている。気の合った方同士でテレビを観て頂ける様にテレビ前にソファを設置している。独りを好まれる時は廊下に設置したソファで寛いで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自身の使用されていた家具や家族様の写真などをお部屋に飾っている。使い慣れた寝具も使用して頂いている方もおられる。馴染みのものがある事で安心できる環境作りに取り組んでいる	各居室にトイレやクローゼット、飾り棚があります。使い慣れたタンスやテレビなどを置き、折り鶴や家族の写真、花等を飾り利用者が安心して過ごせるよう支援しています。夜間トイレに行きやすいようなベッドの配置にしたり、じゅうたんを敷くなど個々に合った居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で安全に過ごして頂く為に転倒再発の危険のある方は壁の角にクッションを付けている。ご自身でトイレに行きやすいようにベッド位置を変えたり、状況に応じて手摺り代わりに椅子を設置したりしている。		